京都市におけるオーバーツーリズムと住民意識 に関する研究

一宿泊業事業者・従事者の京都市住民を対象とする
インタビューを通して一

SHI Yao

一、研究の背景

京都市は世界的にみても有名な観光地である。旅行消費額の多い訪日外国人の増加に伴い観光消費額も向上した。賑わいの創出で観光振興が促進された一方、観光公害の問題も一層顕著となった。「京都観光振興計画 2020+1」には、①外国人観光客の急激な増加等による混雑やマナーの問題、②無許可民泊施設の増加、③観光客の集中と混雑問題を指摘し、その対応策として「市民生活と観光との調和」を重視する述べている。

二、オーバーツーリズムと問題意識

日本で「観光公害」と呼ばれる問題は、海外では「オーバーツーリズム (over tourism)」とも呼ばれる。UNWTO (国連世界観光機関) は、「デスティネーション全体又はその一部に対し、明らかに市民の生活の質又は訪問客の体験の質に悪い形で過度に及ぼされる観光の影響」の定義を引用した。

オーバーツーリズムに関する研究の中に、農村地域を対象として研究 (張ら, 2019) によると職業¹がオーバーツーリズムへの評価に影響を与えないが、都市部を対象とした研究 (西川, 2021) では仕事が観光と関連する「観光関係者²」と仕事が観光と関連しない「観光非関係者」は有意な意識差が存在している。一方、仕事が観光と関連する者の中に、小売業と宿泊業は経営上に大きな差異

¹ 張ら (2019) は、地域住民を観光関連産業 (観光職) と非観光関連産業 (非観光職) の二つのグループに分けて分析した。

² 西川 (2021) は、職業が「宿泊業」「観光・レジャー施設」「土産店」のいずれかに当てはまる回答者を「観光関係者」、それ以外を「観光非関係者」と定め、両者による意識の比較を行った。

が存在すると考えられる。

本研究では、1つの問題意識として、「業界はオーバーツーリズムへの評価に影響を与えないだろうか。」を設ける事とした。また、オーバーツーリズム問題において、既往研究では地域住民の意識に注目し、全体的な傾向を解明していた。地域住民の中には、観光に関する仕事で利益を得る「観光関係者」も確かに存在している。そこで本研究では、もう1つの問題意識として、「観光関係者はどのような意識を持っているのか³。」を設ける事とした。

三、民泊問題と問題意識

京都市のオーバーツーリズムを全体的に見ると、観光客の集中による交通機関や観光地混雑問題、外国人観光客の急増によるマナー問題、簡易宿所増加による地価への影響にもたらした問題があった。その中に、それぞれのオーバーツーリズム問題が発生・影響する範囲は異なっている。民泊の問題はオーバーツーリズム問題で困っている都市すべてに存在するわけではない。

訪日外国人観光客の急増に伴って、京都市はホテルの建設ラッシュが続いているが、すぐには訪日外国人観光客の急増に追いつかない。そこで、宿泊施設ほど規制が厳しくなく、手っ取り早く開業できる民泊が注目された。しかし、これらの民泊も犯罪の温床になり、違法民泊の横行で近隣住民とのトラブルが多発していた(高田, 2019)。

以上より、本研究における問題意識として、これらの民泊、もしくは他の「宿泊施設の経営者は、京都の観光ないしオーバーツーリズムに関してどのような意識を持っているのか。」を設ける事とした。また、次の問題意識として、これらの宿泊施設の経営は、そもそも違法民泊を通報する、もしくは宿泊施設に悩まれる「地域住民とどのように繋がっているのか。」を設ける事とした。

四、研究の方法と目的

本研究では、京都市の住民を対象として、観光に対する意識に関するアンケート調査を二次分析する。とりわけ、京都市における民泊問題について住民意識の傾向を把握する。次に、二次分析の結果を踏まえて、「住民」と「観光事業者・従事者」の両方の立場が違う問題点や不明点及び宿泊施設と地域住民の関係構築に関して解明する。具体的には、京都市内に居住し、観光に最も親和性の高い宿泊業に関する仕事をしている民泊もしくは他の宿泊施設の経営者を対象とするインタビュー調査を実施する。

これらを通して、住民観光業者の意識及び宿泊施設と地域住民の関係構築を解明し、オーバーツーリズムが観光業に関する仕事をしている地域住民の意識にもたらす影響の実態を把握する事を目的とする。

³ 地域住民と観光関係者の位置付けは本文の**四、用語定義**に記述する。

本研究では、民泊の経営はホテルよりシステム的な整備が不足しているなどの原因で、地域住民に迷惑をかけ、ホテルより地域住民との関係構築が不良であることを仮説として、検討していく。

五、結論

住民観光業者の意識について、宿泊施設の種類によるオーバーツーリズム経験の差異や、民泊の経営形態によるオーバーツーリズム現状の差異などが明らかになった。

宿泊施設と地域住民の関係構築について、宿泊業者は町内会などの地域活動にはあまり関与していないが、周辺住民を尊重し、プロセスにおいて規範を遵守していた。

オーバーツーリズムが住民観光業者の意識にもたらす影響について、オーバーツーリズムの時期も新型コロナウイルスの時期も経験した京都市内の宿泊業者は、稼働率の向上を期待しているが、同時に町の合理的な発展や観光客の快適な滞在を望んでおり、彼らの個人的な視点が利益追求だけでないことがわかった。